

会場名	サブリーダー	
	役職	氏名
大阪国際会議場 12 階 1202 号室	地区代表幹事	浜田 晋
	地区研修委員	木越 正司
リーダー 役職・氏名	次年度地区職業奉仕委員長	北村 譲
ガバナー 松本 進也		
議事録作成者	副SAA 横井 理	

開会：(15 時 30 分)
発表者：ガバナー 松本 進也
<p>【記録内容】</p> <p>開会挨拶</p> <p>ロータリーにおける「職業奉仕」と「社会奉仕」の関係について述べると、海外では並列の扱いとなっているが、日本においては「職業奉仕」の方が上位にあるように思われている。どちらもロータリーの五大奉仕の一つであるが、「職業奉仕」の概念はややもすれば難しく、その考え方も変遷しつつあるようにも感じられる。ロータリーの根幹精神を深く理解し、基本理念に戻ってじっくり考え直す必要があると考えている。本日は木越地区研修委員が「職業奉仕」について分かりやすくお話をされるので議論を深めていただきたい。</p>
発表者：大阪ロータリークラブSAA 森 良夫 (15 時 35 分)
<p>【記録内容】</p> <p>資料確認・出席役員及び委員の紹介</p>
発表者：次年度地区職業奉仕委員長 北村 譲 (15 時 40 分)
<p>【記録内容】</p> <p>2017-18 年度活動方針発表</p> <p>イアン H. S. ライズリー RI 会長のテーマを受け、2660 地区片山ガバナーが掲げられたのは、“個性を生かし、参加しよう” 「ロータリーの基本理念と奉仕活動の充実と実践を表す言葉」というスローガン、そして 5 つの具体的目標である。</p> <p>地区職業奉仕委員会はこの「テーマ・スローガン・目標」を活動にしっかり反映したい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014-15 年度からの IM 毎の担当制を継続し、各クラブの職業奉仕活動を支援する。 ・前年度より引き続いて合同勉強会を実施し、職業奉仕についてより理解を深める。 ・「職業奉仕 Q & A」を地区ホームページで公開し、各クラブのサポートツールとする。 <p>などである。</p> <p>行事としては、平成 29 年 5 月 13 日 (土) 及び平成 30 年 5 月 12 日 (土) 開催の新旧クラブ職業奉仕委員会議、また、平成 29 年 9 月 2 日 (土) 開催のクラブ職業奉仕委員長・地区委員の合同勉強会が決まっているので各クラブ委員長及び委員は出席願いたい。</p>

発表者：地区研修委員 木越 正司 （ 15 時 50 分 ）

【内容】

「わかりやすい職業奉仕を」ー持続できるロータリー精神をめざして
(パワーポイントを使用しての講演)

先ず、近代資本主義社会における「労働観」「職業観」は神から召された「天職」であり
” Vocational Service” 「職業奉仕」の原語となったことを解説いただいた。

次に、「社会奉仕」が良い社会作りのために奉仕を行うことであるのに対し、「職業奉仕」とは
「収益を得、継続維持しながら職業を営む心」と「世のため人のために尽くす奉仕の心」を
「ひとつの心」として考えることである、さらに、ロータリーにおいて「職業奉仕」を
実践するには「職業倫理」が強く求められる、とのご説明があった。

続いて、「奉仕」についてのロータリーと他の諸団体との違いについて言及され、他は職業を
離れて「団体奉仕のみ」を行うが、ロータリーにおいては「団体奉仕」の考えはなく、
一人一人が職業倫理に基づき “I serve” の活動を行い、個のロータリアンの集合体である
クラブが成り立つのである、この点については誤解が多いのでは、と問題提起された。

また、ロータリーでは「職業」と「奉仕」という二つの異なった考えを調和させるために、
内部対立を経ながら国際大会において、奉仕哲学の “Serve above self” と実践理論の原理で
ある “He Profits Most Who Serves Best” が「二つのモットー」として決議されており、
現在もロータリーの奉仕哲学として生きている、と述べられた。

その後、” Vocational Service” 「職業奉仕」が四大奉仕部門として組織されたが、
道徳律が宗教的であるなどの理由から 40 年間職業奉仕委員会が空白状態にあったこと、
「道徳律」の復活を望む声に応え「ロータリアンの職業宣言」の採択がなされたこと、
そして五大奉仕部門の一つとして現在に至る経緯のご説明があった。関連事項として、
米山初代ガバナーの言葉「ロータリーの例会は人生の道場、人づくりの修練の場である」、
そして「四つのテスト」の成り立ち及びロータリーでは職業倫理訓として認められている
ことが紹介された。

次に “Ideal of service” の変化についても言及され、「職業奉仕」が理念から実際の
奉仕活動を含める考え方に移行してきたこと、そして現在では広く社会奉仕活動までもが
含まれることになったとのご説明があった。

続いて、社会とロータリーの変化について、社会において金融資本主義の台頭により
職業倫理の低下傾向がある一方、ロータリーにおいては社会奉仕や RI における財団寄付が
重要視されるようになり、クラブにおいては出席義務意識の低下が認められていることを
述べられた。

さらに職業観の変化と共に企業不祥事が多発していることから、職業活動・企業活動に
おいては職業倫理の確立及び「公益資本主義」の考え方が重要であると説明された。

以上、「求められる自分の職業に対する奉仕理念」を考え、職業上の高い倫理基準を持つ、
地域社会や利害関係者のニーズに応える、あらゆる奉仕の機会をとらえて世の中を良くする、
ということが今後持つべき「ロータリー精神」であると結論づけられた。

最後に、「ロータリーの樹」を図示され、従来は樹の幹が「職業奉仕」となっていたが、
幹はあくまでも理念で奉仕活動は枝葉である、と述べられてご講演を終えられた。

発表者：地区職業奉仕委員 西口 宗宏 （ 16 時 40 分 ）
【内容】 アンケートの説明 4 月 28 日までにガバナー事務所の加茂さんに提出する。
発表者：地区職業奉仕副委員長 濱中 眞希子 （ 16 時 45 分 ）
【内容】 今後の予定など
発表者：地区代表幹事 浜田 晋 （ 16 時 50 分 ）
【内容】 閉会挨拶 木越氏のご講演は分かりやすく示唆に富む内容であった。 「ロータリーの友」1月号に” 「職業奉仕」はロータリーの根幹か？” という記事があり、世界と日本の考え方のギャップについても述べられている。本日の講演内容と多少考えの違いはあるが、未読の方は是非読んでいただいて「職業奉仕」を考える一助としていただきたい。
発表者：SAA 森 良夫 （ 16 時 55 分 ）
【内容】 閉会の言葉

備考・メモ

- ・参加者より講演の資料を求める声が多くあったため、本日の出席者の限りガバナー事務所を通じてパワーポイントファイルを提供することとなった。